

優秀賞

ちえ

崔 ジンフン

毎晩、あなたの名前を繰り返し、恋人になった私達の姿を夢見ている。いつしか夢は現実となり、私の手を握って歩いているあなたを見ながら幸せを感じる私がいる。

私の人生でこんな幸せを感じる瞬間がくるとは思ってもいなかった。障がいを持つ私を愛してくれる人なんていないだろうと思っていた私は、誰かに自分の心を伝えることが怖くなっていた。

だから、あなたが好きでありながらも、好きだという言葉も言えず、子供のように訳もなくいたずらをして私の心を表したものだ。

そんなある日、酔った勢いで告白をしてしまった私。

驚くあなたを見て、「ああ！余計なことを言ってしまった」と、「障がいを持つ私を受け入れてくれる訳がない」と思った瞬間、私を抱きしめて「待ってたよ」と言ってくれたあなた。

そんなあなたに「障がいがあっても大丈夫？」と私が聞くと、私をもっと強く抱きしめて、「それでもあなたが好き」と言ってくれたあなた。本当にありがとう。

(韓国大邱市 / 25歳 / 男性)